名詞句照応の条件

前田 ひとみ

Conditions on NP Anaphora

Hitomi MAEDA

はじめに

現在，言語理論の主流を占めているGB理論(Government-Binding Theory)は，生成文法理論の標準理論(Standard Theory)，拡大標準理論(Extended Standard Theory)の流れをくむものであるが，従来の理論とたいへん異なってみえるのは，変形規則を大幅に軽減したためである．このため，文法の枠組の再編成が必要になった．このような状況の中で，統語理論と意味理論の両方につながり，GB理論の名称の一部にもなっている束縛理論(Binding Theory)について検討することは重要であると考える．この論文において，Chomskyの束縛理論でほとんど扱われていないPP内の照応関係を中心に論じたいと思う．そこで，PP内のNP anaphoraを中心にNPの照応関係を扱っているReinhartの(非)同一指示規則も取りあげ，Chomskyの束縛理論と比較することにした[1]．まず最初に，Chomskyの束縛条件の概略を述べ，次に，Reinhartの(非)同一指示の条件を示し，最後にこの二つを比較検討することにする．

束縛条件

文中に二つ以上の名詞句が存在する場合，それらの名詞句が同一指示か否かを決定する方法はどのようになっているのだろうか．伝統的には，すべての名詞句に指標をつけ，その指標が同じものを同一指示であるとする方法がとられている．もちろん，同じ指標をつけるためにはそれらの名詞句の数・人称・性が一致していなければならないという最低限の制限があるが，さらに名詞句の種類によって条件がつけられる．これがChomskyが提案したGB理論の中の束縛条件である[2]．

(1) A．照応形は，統率範ちゅうを持つ場合，その範ちゅう内で束縛されねばならない．
B．代名詞類のNPは，統率範ちゅうを持つ場合，その範ちゅう内で自由でなくてはならない．
C．語い項目のNPは，いかなる場合も自由でなくてはならない．(筆者訳)[3]

ここでいくつかの用語がでてくるので，これらの定義を次に示す．

(2) a．Xが構成素統御(以後，C－統御という)されている項と同じ指標を受けた項であるなら，Xは束縛されているという．束縛されていない場合を自由であるという．
b．項とは，SやNPの内部にあるNPの位置(主語，直接目的語，間接目的語等)のことである．

c．Xを支配する最初の枝分かれ節点がYも支配し，XもYも互いに支配しないなら，XはYをC－統御するという．

d．XがYを統率する構成要素を含む最小のNPかSであるなら，XはYの統率範ちゅうである．

e．XがYをC－統御している最小の潜在的統率者(＝V，A，N，P，時制)で，XとYの間に$\bar{S}$またはNP障壁がないなら，XはYを統率する．(筆者訳)[4]

この束縛条件が適切に作用するかどうか，実際の例文をみていくことにする．

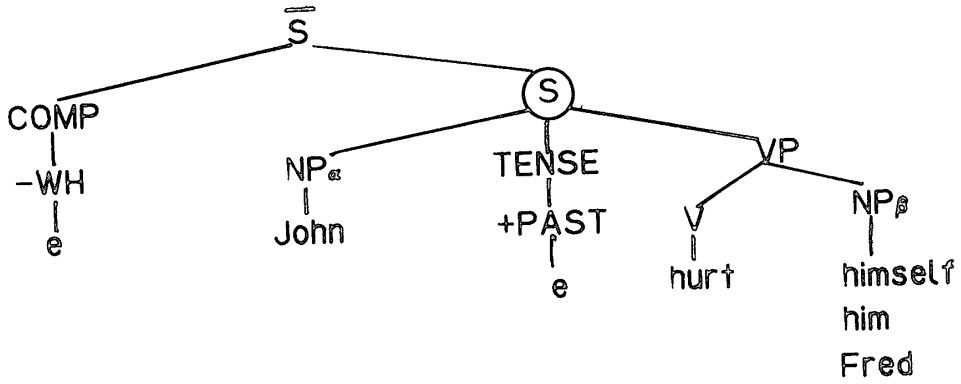
(3) a．John hurt himself

b．John hurt him

c．John hurt Fred

(3)の文の構造は概略，次のようになっている．

(4)



NPβはhurtによって統率される(cf.(2) e.)．このhurtを含む最小のNPかSというのはⓈである(cf.(2) d.)．Ⓢの内でNPαはNPβをC－統御している(cf.(2) c.)．さらに，NPα，NPβは項である(cf.(2) b.)．従って，同じ指標が与えられれば束縛されているといえる(cf.(2) a.)．ここで，(3) a.のhimselfは照応形であるので，(1) A.の条件に従うとすれば，Johnによって束縛されなければならないので，Johnと同一指標を持つことになり，native speakerの言語直観と一致する．次に，(3) b.のhimは代名詞類なので，(1) B.の条件に従うことになる．つまり，Johnに束縛されてはならないので，同一指標は与えられない．また，(3) c.のFredは(1) c.の語い項目にあたるので，統率範ちゅうに関係なく，常に束縛されず自由でなくてはならない．従って，Johnとは別の指標が与えられる．どちらの場合もnative speakerの言語直観と一致する．

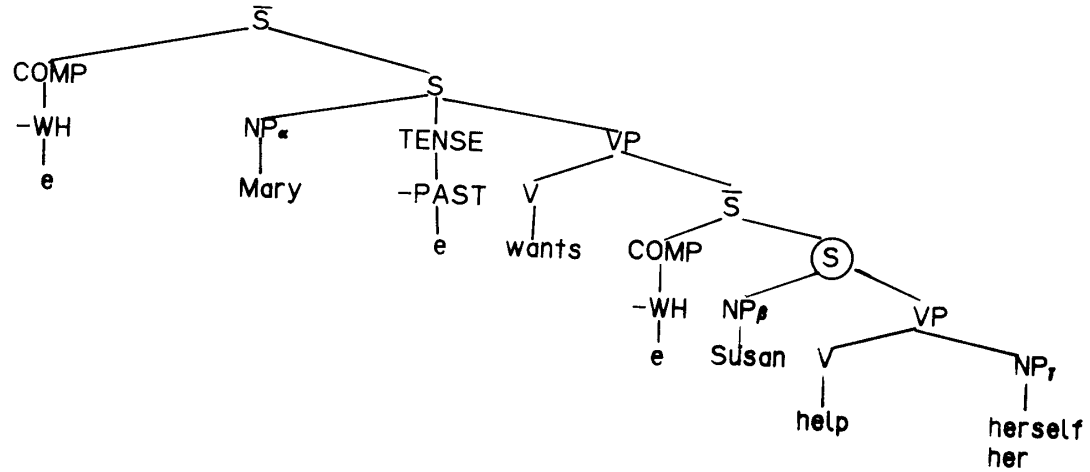
次に，もう少し複雑な例をみていくことにする．

(5) a．Mary wants Susan to help herself

b．Mary wants Susan to help her

(5)の文の構造は概略，次のようになっている．

(6)



NPγ は help によって統率されている．この help を含む最小の NP を S というとⓈである．Ⓢの内で NPβ は NPγ をC－統御している．従って，NPβ は NPγ を束縛することができる．(5) a.において，herself は照応形なので(1) A.により，Susan に束縛される必要があるので，Susan と herself は同一指標が与えられなくてはならない．逆に，(5) b.の her は代名詞類なので，(1) B.により，統率範ちゅう内で自由でなければならない．故に，Susan とは別の指標が与えられなくてはならない．NPα の Mary とは，統率範ちゅう外なので，同一指標でも別の指標でもよい．ついでながら，NPγ が語い項目である場合は，いかなる場合も自由でなくてはならないので，たとえ Mary や Susan であっても NPα，NPβ の Mary や Susan とは別人を指す．これらのことは native speaker の言語直観とも一致する．

以上のように，束縛条件を認めると照応関係がうまく説明できる．さらに，いろいろな例をみていけば，時制節の要素で COMP に含まれていないいかなる要素もその時制節の外部のいかなる要素とも同じ意味に解釈することはできないという時制文の条件や，指定主語を伴った節または NP の非主語要素は COMP に含まれていない限りその節または NP の外部のいかなる要素とも同じ意味に解釈することができないという指定主語の条件を使わずに束縛条件ですべて説明できることや，NP－移動，WH－移動の痕跡も条件にあてはまることがわかるが，ここでは説明する余裕がないので省略する[5]．

(非) 同一指示の条件

Reinhart は代名詞の照応関係について，次のような条件を示している．

(7)　(非) 同一指示規則[6]

名詞句は，その構成素統御領域の中にある非代名詞 (non pronoun) と同一指示的であると解釈できない．

これは言いかえると，名詞句は，その構成素統御領域の中にあるもう一つの名詞句が，代名詞である場合のみ同一指示的であると解釈できる可能性がある，ということで，領域外の名詞句との照応関係については関知しない．ここでも，いくつかの用語の定義を次に示しておく．

(8) a．C－統御

(i)節点Aを最も直接的に支配している枝分れ節点 α_1 がBを支配しているか，

(ii) α_1がBを支配している節点α_2に直接支配されており，かつα_2がα_1と同一範ちゅうであるならば，AはBをC－統御しているという．

b．C－統御領域

節点Aの領域はAによってC－統御されるすべての，そして，それだけの節点からなる[7]．

さて，この(7)の条件がどのように作用するかをみていくことにする[8]．

(9) a．　Near *him, Dan* saw a snake

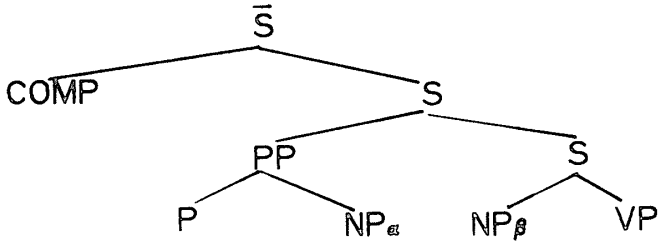
b．＊Near *Dan, he* saw a snake

c．＊Near *Dan, Dan* saw a snake

(イタリック体のNPが同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

(9)の文の構造は概略，次のようである．

(10)



ここで，NPαはNPβの領域内にあるので，(7)によると，NPαが代名詞の場合のみNPβと同一指示であると解釈できる[9]．従って，(9) a．のみNPαとNPβが同一指示であると予測できる．

次に，下の(11)と(12)を比べて検討することにする．

(11) a．　In *his* family, *Ben* is the genius

b．　In *Ben's* family, *he* is the genius

c．　In *Ben's* family, *Ben* is the genius

(12) a．　With *her peacock feather, Rosa* tickles people

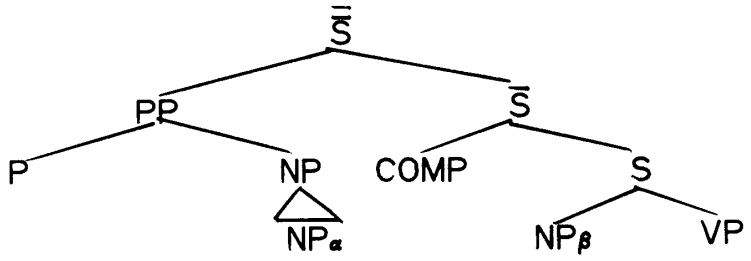
b．＊With *Rosa's* peacock feather, *she* tickles people

c．＊With *Rosa's* peacock feather, *Rosa* tickles people

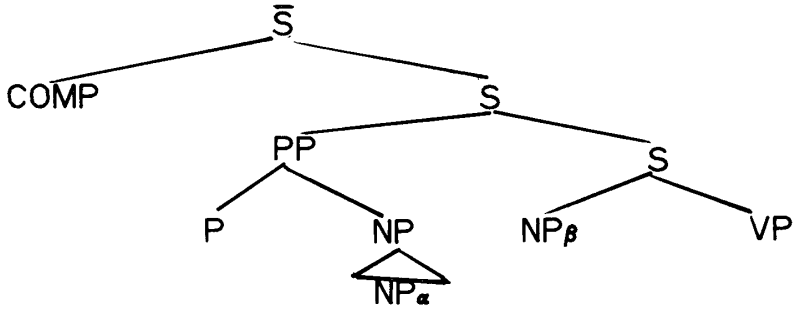
(イタリック体のNPが同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

(11)b．c．と(12)b．c．の容認可能性の違いを説明するために，Reinhartは，(11)のPPをSのPP，(12)のPPをVPのPPと区別して異なった構造を持つと考えている．このうち，(12)のような文の構造は，Reinhartによると，VPについていたPPが前置されCOMPにつくとなっているが，安井(1983)によると，VPのPP前置は話題化と同様の特徴を持つので，話題化変形の結果であると考えた方がよいとなっている[10]．そこで，ここでは，話題化変形の結果によるものとして，この構造を示す．この論文において，SのPPとVPのPPは，それぞれ次のように区別する．

(13) S の PP を含む文



(14) VP の PP を含む文



(11)は(13)の構造を持つ．NPα も NPβ もお互いの領域内にないので(7)による制限はなく，(11)a.－c.すべて可能であるといえる．一方，(12)は(14)の構造を持つ．ここでは，NPα は NPβ の領域内にあるので，NPα が非代名詞である場合 ((12)b.c.) は，NPα と NPβ が同一指示であるという解釈は得られない．NPα と NPβ が同一指示とした場合，(12)a.のみ正しく解釈される．以上のように，S の PP と VP の PP を区別することによって，(11)と(12)の容認可能性の違いが，(7)の条件で説明できる．

二つの条件と問題点

これまで，Chomsky の束縛条件，Reinhart の (非) 同一指示条件の概略をみてきたが，この二つの条件を比べてみることにする．

Reinhart の条件では，C－統御領域が定めてあり，この内のことを問題にしている．一方，Chomsky の条件は，統率範ちゅうを定めて，照応関係を述べている．しかし，Chomsky の条件では，それ以外にも anaphora が同一指示となる (束縛される) 大前提として，先行詞にC－統御されなければならないことになっている (cf. (2) a.)[11]．そこで，Reinhart の条件と比較しやすいように Chomsky の条件を言いかえると，

(15) A．NP はその統率範ちゅう内に先行詞があり，先行詞にC－統御されている場合，照応形でなければならない．

B．NP はその統率範ちゅう外に先行詞があり，先行詞にC－統御されている場合，代名詞でなければならない．

C．NP は統率範ちゅうに関わらず，先行詞になりうるような他の NP にC－統御されていなければ，語い項目でも代名詞でもよい．

さらに，Reinhart の条件も言いかえると，

(16) NP は先行詞にC－統御されている場合は代名詞でなくてはならない．

結局，(16)は(15)A．B．を統率範ちゅうの内外によって区別しないで，いっしょにしたものである．しかも，Reinhart は照応形と代名詞の区別をしていないことから(16)の代名詞には照応形が含まれるかもしれない．つまり，Chomsky の条件と Reinhart の条件の違いは，照応形と代名詞の区別の有無のみである．(但し，C－統御の定義も若干違っているが，後で少し触れることにして，ここでは，今のところ(8)a．の Reinhart の定義に従うものとする．)ところが，次の例からも照応形と代名詞の区別が必要であることがわかる．

(17) a．　*John* hurt *himself*

　　b．＊ *John* hurt *him*

(18) a．　*Mary* looked at *herself* in the mirror

　　b．＊ *Mary* looked at *her* in the mirror

　　(イタリック体の NP が同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

従って，Chomsky の条件の方が照応関係について，より事実に沿った詳しい記述をしているといえる．

そこで，Reinhart が挙げた PP 内に anaphora を持つ例文を中心に，Chomsky の統率範ちゅうという領域を区切った場合，うまく説明できるかみていくことにする．

まず最初に，PP 内に名詞，代名詞の所有格がくる場合をみてみる．次の例は S の PP 内に所有格のあるものである．(20)はその構造の概略である．

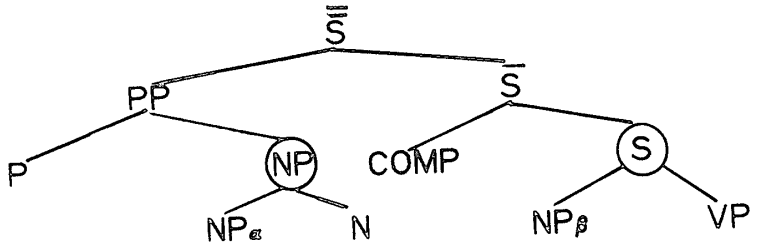
(19) a．In *his* family, *Ben* is the genius

　　b．In *Ben's* family, *he* is the genius

　　c．In *Ben's* family, *Ben* is the genius

　　(イタリック体の NP が同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

(20)



(20)において，NPα の統率者は右どなりの N であり，統率範ちゅうはⓃⓅである．NPα は，この内で自由である(束縛されていない)ばかりでなく，外にも NPα をC－統御するような NP はないので，(15)c.にあたり，代名詞でも語い項目でもよい．一方，NPβ の方からみると，NPβ の統率範ちゅうはⓈであるが，NPβ もこの内でも外でもC－統御されないので，(15)c.により，代名詞でも語い項目でもよい[12]．従って，(19)a.－c．ともに文法的である．これは Reinhart の予測とも一致する．つまり，(20)のような構造を持つ文において NPα も NPβ も常に自由であり(束縛されない)，照応形になる可能性がないので Reinhart の条件による予測と Chomsky の条件による予測は常に一致する．次に，VP の PP に所有格がある例をみていく．

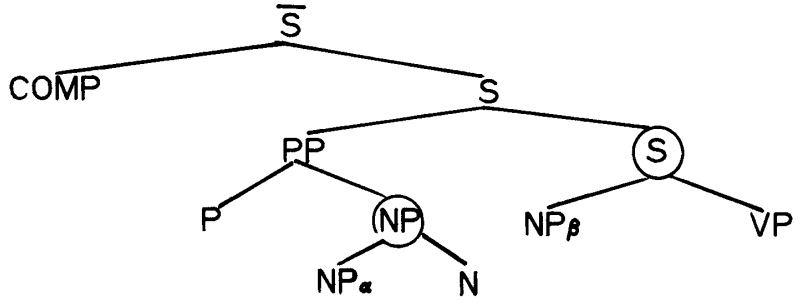
(21) a．　With *her* peacock feather, *Rosa* tickles people

　　b．＊ With *Rosa's* peacock feather, *she* tickles people

　　c．＊ With *Rosa's* peacock feather, *Rosa* tickles people

　　(イタリック体の NP が同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

(22)



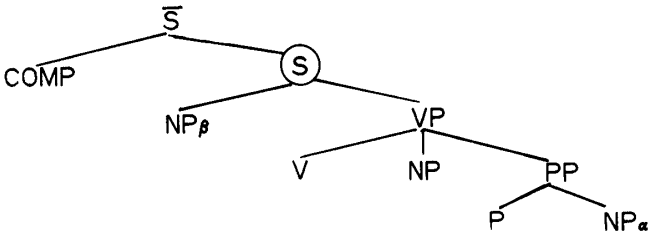
(22)において，NPαの統率者は右どなりのNであり，統率範ちゅうはⓃPである．NPαはこの内で自由である(束縛されない)が，NPβにC－統御されるので(15)B．により，代名詞でなければならない．故に，(21)b．c．は非文となる．NPβの方からみると，NPαの統率範ちゅうはⓈであるが，NPβはこの内でも外でも自由である(束縛されない)ので，代名詞でも語い項目でもよい．従って，(21)は，a．が文法的で，b．c．が非文である．この構造の場合も，NPα，NPβともに統率範ちゅう内で束縛されることがないので照応形にはならず，Chomskyの予測とReinhartの予測は常に一致する．

次に，PP内のanaphoraが目的格の場合をみていくことにする．ここでは，PPが前置されている例だけでなく，後置されている例もあわせてみていくことにする．

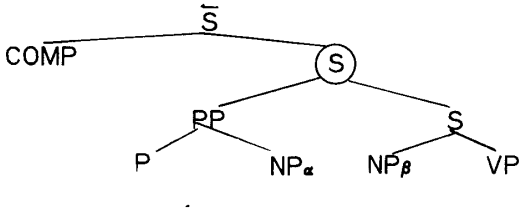
(23) a．*Dan* saw a snake near *him*
b．*Dan* saw a snake near *himself*
c．Near *him, Dan* saw a snake
d．Near *himself*, *Dan* saw a snake

(23)の例の *him*, *himself* が，主語の *Dan* と同一指示と解釈できるかという点について，検討する．(23) a，bの構造は(24)に，(23) c，d．の構造は(25)に示す．

(24)



(25)



(24), (25)ともにNPαはNPβにC－統御されるので，ReinhartによればNPαは代名詞でなければならない．Chomskyの条件に従うと，(24), (25)ともNPαの統率者は左どなりのPであり，統率範ちゅうはⓈである．従って，統率範ちゅう内のNPβにC－統御されているので，(15)A．により照応形でなければならない．二つの条件による予測が異なってしまうので，実際にnative speakerにチェックしてみたところ，10人のうちa．7人，b．9人，c．6人，d．9人が同一指示と解釈できると答えた．ということはa～dともに容認の可能性が高い．これをChomskyの条件で説明することはできないので修正が必要である．[13]その一つの方法として，PPを有標の場合の統率範ちゅうとして認めることである．PPが統率範ちゅうになる場合は，NPαは統率範ちゅう(PP)内で束縛されないので，照応形でなく代名詞でなくてはならない．つまり，基本的には(無標の場合)統率範ちゅうはNPかSであり(a．について7人のうち6

人，c．について6人のうち5人は，それぞれb．，d．も同一指示解釈が可能であると答えたし，追って質問すると，a．，c．よりb．，d．の方がはっきりすると言う)，この場合，b．，d．のように照応形でなければならないが，PPを統率範ちゅうと認め，代名詞でも同一指示であるとする場合もあるということである．しかし，この方法も他にPPを統率範ちゅうとする必要性が見い出せなければ，その場限りのものになってしまう．

さらに，問題となる例がある．次の例のPPはSのPPである．

(26) a．＊Tom is a wonderful person to *him*

b．　*Tom* is a wonderful person to *himself*

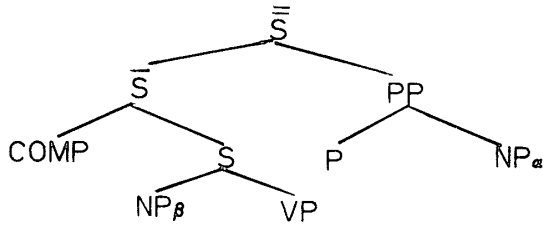
c．＊To *him, Tom* is a wonderful person to

d．　To *himself, Tom is a wonderful person to*

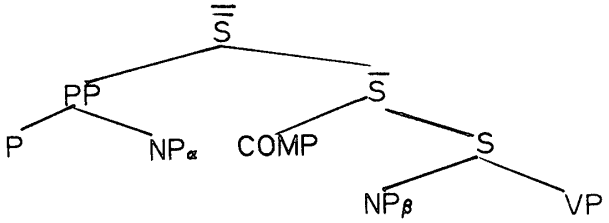
(イタリック体のNPが同一指示の場合の容認可能性を示してある．)

(26)a., b.とc., d.の構造はそれぞれ下の(27)，(28)のようになっている．

(27)



(28)



(27)，(28)ともに，NPαはどのNPにもC－統御されていないので，Reinhartによれば，代名詞でも語い範ちゅうでもよい．しかし，実際にnative speakerにチェックしてみると，

(29) a．＊ *He* is a wonderful person to *Tom*

b．＊To *Tom, he* is a wonderful person

(イタリック体のNPが同一指示の場合の容認可能性が示してある．)

(29)のようになり，a., b.ともに*he*と*Tom*を同一指示とは認められず(26)で示したように，b., d.の照応形の場合のみ同一指示と認められる[14]．ところで，Chomskyの条件によると，(27)，(28)において，NPαの統率者は左どなりのPで統率範ちゅうとなるようなNPかSはない．但し，$\bar{S}$がSと同一範ちゅうであるとするなら，$\bar{S}$が統率範ちゅうといえる．しかし，その中にNPαをC－統御するNPがなければNPαが照応形でなければならないことを説明することはできない．ここで，ReinhartのC－統御の定義とChomskyのC－統御の定義が少し違っていると述べたことを思い出してほしい．Chomskyの定義は次のようである．

(30)　αがβをC－統御するのは，次の場合そしてその場合のみである．

(i) αはβを含まない．

(ii) γ_1……，γ_nは次のような最大連鎖であるとする．

(a) $\gamma_n = \alpha$

(b) $\gamma_i = \alpha^j$

(c) γ_iはγ_{i+1}を直接支配する．

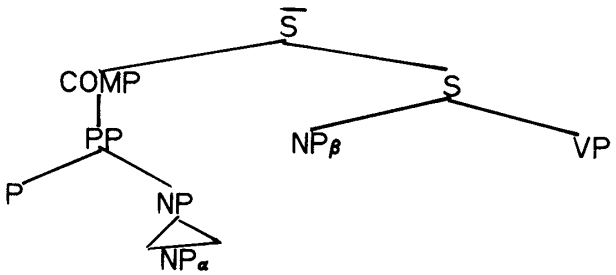
この時，δがαを支配するなら，(I) δはβを支配するか，(II) $\delta = \gamma_1$でγ_1がβを支配する．(筆者訳)[15]

つまり，Reinhartの定義では同一範ちゅうであっても一つしか上に上がれない((27)，(28)において

はSから$\bar{\bar{S}}$まで)のに対して，Chomskyの定義によると同一範ちゅうであればいくつでも上にあがれる((27), (28)においてはSから$\bar{S}$まで)ということである．従って，Chomskyの定義によれば，(27), (28)においてNPβはNPαをC－統御できるので，NPαはNPβに束縛され，照応形でなくてはならないことが説明できる．しかし，この定義をとれば，前に挙げた例文(19)においてNPαはNPβにC－統御されることになり，代名詞でなくてはならなくなるが，実際は(19)a.－c.ともに容認可能であり，理論は事実と異なったものとなる．そこで，考えられるのは，(I) Reinhartの条件のみでなくChomskyの条件も不適切である．(II)C－統御の定義が不適切である．(III)考えられた構造が不適切である．うちのどれかであると思われる．従って，これらのうちどれか(又は全部)を修正し，PP内のanaphoraの同一指示についても正しい条件を課せるよう今後，研究を続けたいと思う．

注

1) この論文において，anaphoraは他の語句(この場合，NP)と同一指示にある語句という意味で広義に，照応形は相互代名詞，再帰代名詞等を示す狭義に区別して使う．
2) Chomsky, Noam：Lectures on Government and Binding, 188, Foris (1981)
3) Radford, Andrew：Transformational syntax, 367, Cambridge Univ. Press (1981),
4) Ibid. 367
5) Cf. Radford：362～395 (1981)
6) Reinhart, Tanya：“Definite NP Anaphora and C-Command Domains”. Linguistic Inquiry, 12, 605～635 (1981), cf. 安井稔：“意味論”英語学大系，5, 301，大修館 (1983)
7) Ibid. 612, cf. 安井 (1983) 301～302
8) Reinhartは，前後関係で代名詞になりうる場合を決定する方法に対して，C－統御による説明の方がよいことを主張しているため，例文はPP前置の場合中心に扱っている．
9) (9)の例の場合のようにNPαとNPβの数，人称，性が一致する場合に限られる．以後の例においても同様である．
10) 安井．306 (1983)
Reinhartの示す構造は，SのPPは(13)と同じでVPのPPは次のようである．



11) この論文において，先行詞という場合，anaphoraに対して照応される語句という意味である．anaphoraより先行していない場合にも使う．
12) (20)のNPβの統率者はNPβとVPの間にあるはずのTenseである．(20)は概略の図であるため省略してあるが，統率範ちゅうはいづれにしてもⓈである．(22)のNPβも同様．
13) Chomsky：290～291 (1981)では(23)b.よりa.の方が一般に使われるものとして扱っている．今回のnative speakerのチェックでは逆の結果を得たので，これに従う．
14) native speakerによるチェックの結果は，10人のうち(26)a．2人，b．10人，c．2人，d．10人，(29)a．0人，b．1人が容認可能とした．
15) Chomsky：166 (1981),